

▼ 目 的 ▲

我々は、慢性疾患の患者に対する総合的な薬物治療管理を支援するために、

(1)医薬品ごとに服薬指導データを搭載した『**薬剤別服薬指導ガイダンスデータベース**』

(2)慢性疾患の視点から薬物治療管理と薬歴記載を支援する『**疾患別服薬指導ガイダンスデータベース**』

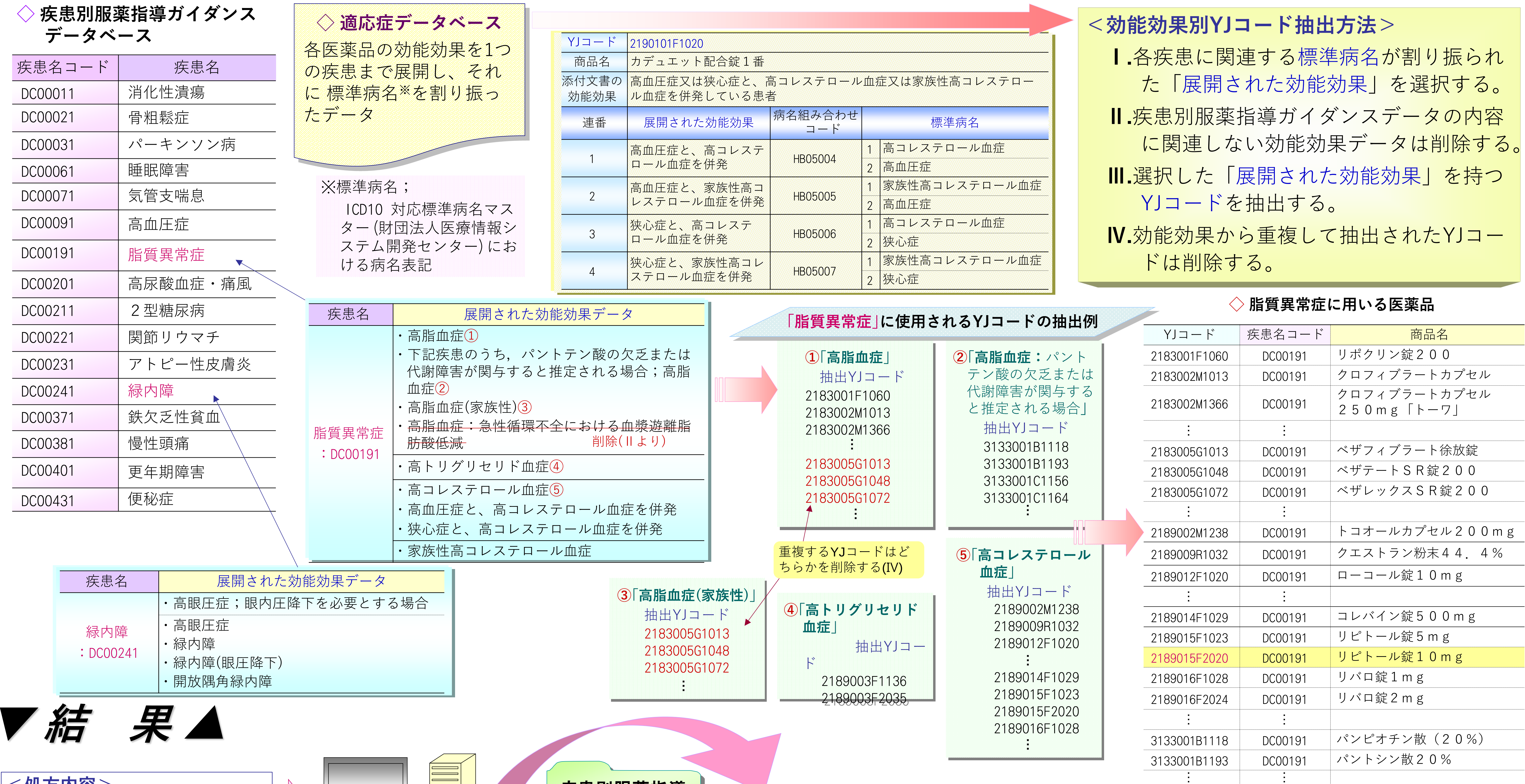
の開発を行っている。

薬局では処方薬を起点として服薬指導を始めるのが一般的であり、患者の疾患名情報が得られないことが多いため、電子薬歴等のシステムで運用する場合、『疾患別服薬指導ガイダンスデータベース』は活用しにくいという問題があった。

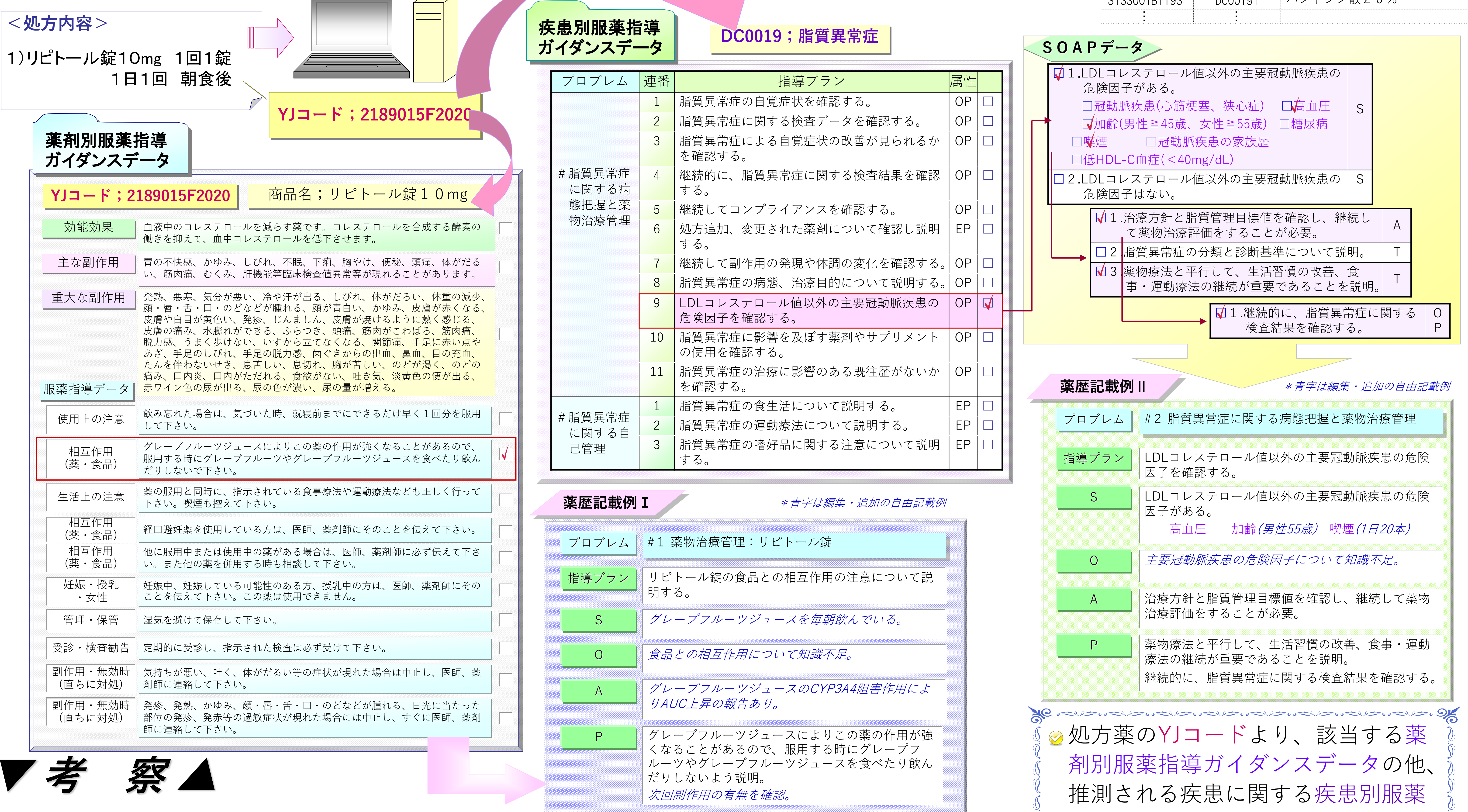
そこで処方薬情報から直接、『疾患別服薬指導ガイダンスデータベース』を運用することを目的に、医薬品名と疾患名を関連づけることを試みた。これにより処方薬の情報を起点として、(1)、(2)のデータベースを活用した総合的な服薬指導が可能になると考えた。

▼ 方 法 ▲

- (1)疾患別服薬指導ガイダンスデータベース搭載の16疾患名のコード化
- (2)弊社の適応症データベースを用い、(1)の各疾患と関連する効能効果を選択
- (3)各疾患ごとに、(2)で選考した効能効果より治療薬を個別医薬品コード(YJコード)で抽出
- (4)抽出したYJコードに(1)の疾患名コードを付与する



▼ 結 果 ▲



▼ 考 察 ▲

YJコードに16疾患の疾患名コードを付与したことにより、処方薬から、推定される患者の疾患名の提示が可能となった。

これにより処方薬から直接、関連する疾患の『疾患別服薬指導ガイダンスデータベース』を展開することができる。

『薬剤別服薬指導ガイダンス』、『疾患別服薬指導ガイダンス』の両データベースを電子薬歴等のシステムで連携させて運用することにより、慢性疾患に関する薬物治療管理の効率化や、治療効果のさらなる向上が期待できると考える。